

開腹手術術後の腹部開放管理（open abdomen management; OAM）に関する患者さんの情報の研究利用についてのお知らせ

この度国立病院機構東京医療センター救急科では、「Open Abdomen における至適一時的閉腹法に関する検討」に参加することになりました。この研究の目的は、開腹術後に閉腹が難しい状況となり腹部開放管理を一時的に行った患者さんの管理方法や治療成績を調べて、どのような OAM の方法が最も良い方法であるかを明らかにすることです。この研究のため、2010 年 1 月 1 日より 2021 年 3 月 31 日までに治療した方の【診療録、検査データなど】の調査を行います。対象となるのは腹部開放管理による治療が行われた方で、調査項目は個人情報を含まない医学的な情報（年齢、性別、身長、体重、既往歴、内服歴、病名、手術術式、手術内容、手術日、身体所見、血液検査、超音波検査、CT 検査、治療内容、入院期間、合併症、退院時転帰など）のみです。患者さんのお名前、住所などのプライバシーに関する情報が外部に漏れることは一切ありませんのでご安心下さい。調査したデータは本研究の代表であります慶應義塾大学医学部救急医学教室にパスワード保護された USB メモリーなどの記録媒体に記録し、送付され厳重に管理されます。本研究における他の参加施設情報は以下の通りとなっております。

慶應義塾大学医学部救急医学教室（佐々木淳一）、済生会宇都宮病院外科（篠崎浩治）、東京都済生会中央病院救命救急センター（関根和彦）、済生会横浜市東部病院救急科（清水正幸）

また、今回の研究で得られた結果に関しては、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告されることがあります。また、ご自身のデータを研究に利用することを承諾されない方は下記にご連絡下さい。その場合も、診療上何ら不利な扱いを受けることはありません。この件に関しましてご質問等がございましたらご遠慮なくお尋ね下さい。

2021 年 7 月

研究責任者

東京医療センター 救急科

栗原 智宏

連絡先 03-3411-0111(代表)